令和８年度　第１回伊勢市スポーツ推進審議会　会議録（概要）

１　日　時　　令和８年９月１日（火）19：00～21：00

２　場　所　　小俣総合支所３階　大研修室

３　出席者　　会　長　片山　靖富　（学識経験者）
副会長　龍田　　洋　（伊勢市スポーツ協会）
委　員　川口　京子　（伊勢市スポーツ推進委員連絡協議会）
山端　正人　（伊勢市スポーツ少年団）
奥田　　守　（伊勢市レクリエーション協会）
志賀　　剛　（伊勢市小学校体育部会）
野村　知広　（伊勢市中学校体育連盟）
西村　真里　（伊勢市ＰＴＡ連合会）
橋本　さち子（総合型地域スポーツクラブ）
平沼　美智子（健康づくり・スポーツ女性指導者）
立花　和子　（健康づくり・スポーツ女性指導者）
豊島　久雄　（学識経験者）
事務局（伊勢市教育委員会事務局スポーツ課）
長井　正文　（課長）
横田　和貴　（主幹兼スポーツ振興係長）
中西　弘幸　（スポーツ施設係長）

１　あいさつ

伊勢市教育委員会事務局　スポーツ課長　長井　正文

２　辞令交付

推薦団体の役員改選等に伴う後任の委員２名に、スポーツ課長より辞令を交付。

３　協議事項

（１）第３期伊勢市スポーツ推進計画の令和７年度取組結果と令和８年度実施計画について

【委　員】令和７年度第２回の審議会でもお尋ねしたが、伊勢志摩リアス式チャリフェスというイベントに 100 万円の補助を出しているが、どのようなイベントなのかわからない。

【事務局】イベント開催までの検討の経過についての説明が至らなかったと反省して

いる。国土交通省によるナショナルサイクルルートの認定を契機に、自転車の誘客イベントを検討してきて、令和７年度に初開催となった。参加料収入だけで賄えない分を県と３市で負担し、参加賞や運営費に充てている。令和８年度は規模を拡大するが、実績がない中での予算要求は難しいため、不足分は県が負担するということになった。

【委　員】伊勢市では、どのようは人が関わっているのか。

【事務局】運営については、三重サイクリング協会に委託しており、市職員は補助的な役割を担っている。今のところ市内のスポーツ団体やスポーツ推進委員の参加は求めておらず、ボランティアの募集も県やサイクリング協会が中心に動いている。

【委　員】令和７年度の実績で、人口減少の中にあってスポーツイベント参加者が増えている点は評価できる。今後、目標達成のためにどのような取組をしていくのか。

【事務局】スポーツ単体のイベントだと、スポーツに興味のある方にしか目を向けていただけないと思う。令和７年度は、環境フェア・福祉フェスティバルという違い分野のイベントと同じ会場で開催するこにより、スポーツに興味のない方にも体験をしていただけるようにした。また、イオン伊勢店に会場提供いただき、買い物に来たお客様に興味を持っていただけるようにした。

【委　員】ちびっこ超人選手権という大きなスポーツイベントがなくなるが、令和８年度以降の考えはあるか。

【事務局】新しいイベントは難しいが、イオン(株)と包括連携協定を締結したので、ララパークでもイベントを企画している。また、スポーツフェスティバルについて、今年はアーバンスポーツも取り入れて幅広い年代の方々に参加していただきたい。令和９年度以降も、イオン(株)と連携したイベントや、他の分野のイベントとの合同開催など、より多くの方々に情報発信できる機会を捉えていきたい。

（２）第４期伊勢市スポーツ推進計画（案）について

【委　員】スポーツ活動をするための施設がない。特に高齢者は夜間の外出が難しいし、徒歩や自転車で移動できる距離で活動をしたい。四日市市では学校の空き教室を地域に開放していると聞いた。体育館・グラウンド・校舎を使っていない時間帯があるので、調整して使えるようにできないか。活動をしたくても場所がない。会場が確保できれば、こどもが教室に参加している間に、保護者も他の教室に参加する等の可能性が広がる。

【事務局】四日市の事例については情報収集したい。現在の学校は児童・生徒以外が自由に出入りできる状況ではないので、どのようにクリアしていったか。体育館としては、小俣総合体育館、県営サンアリーナ、県営体育館が活動場所となるが、地域的な偏りがあるので、活動場所の確保は課題である。

【委　員】中学校部活動地域展開について、今まで中体連・高体連として学校教育に入っていたものが地域展開される。第３期計画では小体部及び中体連のサポートについて記載があったが、中体連は教員の団体であり土日に試合を行うが、中学校の教員が関われなくなると成り立たないので、国の方針と現場の肌感覚がかみ合っていないように感じる。地域展開により学校教育課からスポーツ課に寄っていくイメージだとすると、計画に大きく取り上げてよいのではないか。例えば、目標値に中学生のスポーツ実施率を挙げるとか、今なら各学校の運動部に参加している生徒数も分かるし、中学生が運動に関わっている割合が高いことをがわかる。今まで一番近い中学校で運動できていたのが、地域展開によりできにくくなる可能性があるところを数値として表し、目標設定をしていく必要があると思う。

【委　員】保護者の間でも、地域展開の移行段階なので、どこのチームに加入したらよいかわからないという声がある。チームがあるかもわからないし、今は自分たちで連絡先を探したりしているので、どうすればよいか迷っている保護者に向けて一覧のようなものがあると探しやすくなる。

【委　員】２月に文科省が認定地域クラブの方針を打ち出し、このクラブは中学生が活動するクラブだと認定するのが教育委員会の役割として謳われたので、情報発信も行われてくると思う。

【事務局】第４期計画も地域展開も同じ令和 13 年度までの目標であり、課題として計画に盛り込んだ方がよいと思うので、記載内容を検討したい。現在は実証事業として拠点型や地域ごとの活動など試行錯誤しながら進めており、学区単位の活動拠点がないと参加が難しい生徒もいるという意見も出ているが、指導者確保の面で学区単位の教室を設けることが難しい種目も出てくると思う。今年から指導者バンクを開始し、指導者の確保が難しい団体にはバンクを活用して体制を整え、今まで中学校で行っていただいた教育の中での部活動の理念とか考え方を引き継ぎながら地域展開を進めていきたい。

【委　員】部活動のこれまでの歴史や学校教育を大切にしていることがわかり安心したが、教育員会の方針や情報が保護者や教員に伝わっていないところがあるので、今後の情報発信をお願いしたい。

【委　員】基本理念について、スポーツ施設の利便性向上とあるが、利便性だと限定的な捉え方になるので、環境整備などの表現の方がよいのではないか。施設の数が増えれば利便性は上がるし、安全安心、経済的負担が少ないなども利便性に繋がるが、第３章では施設予約システムとキャッシュレス化しか記載がなく、利便性の向上に努めていると言えるのか疑問がある。また、施設の満足度は利便性の向上だけで変わるものではないと思うので、基本目標に対して妥当なのかが気になる。

　４ページに「適性に応じてスポーツに参画する」とあるが、この表現が適切なのか。

　５ページに「安定した競技力が維持できる」とあるが、競技力の向上は目指さないのか。

６ページに「スポーツをすることで楽しさや喜びを知り」とあるが、スポーツができない人はスポーツの楽しさや喜びを知ることができないのかと考えると、表現を検討した方がよいと思う。

女性のスポーツ実施率が低いのは事実だが、その原因として家事・育児による忙しさを挙げている。女性のスポーツ実施率が低い傾向は中学生からはじまっており、部活動を見ても明らかに女子生徒の参加率が低いことを考えると、他の要因があるのではないかということを考えていいと思う。

７ページの「複数人で実施する割合」とは、複数人で実施するスポーツをしている人を指すのか、複数人でスポーツをしている人を指すのか、確認をしていただきたい。

安全安心の項目がなくなったが、第３期計画ではコロナ禍に限った記載であったが、今のスポーツ現場では安全安心が強く求められている。熱中症やハラスメントが社会問題になっているので、安全安心に対して言及しなくてよいかを検討していただきたい。

目標値について、根拠を示すことにより、市がどういうことを目指しているかがわかりやすくなると思う。また、過去の目標値の変遷も示されると親切だと思う。

４　その他

特に発言はなかった。

以上